

2015年 社員旅行レポート

社員旅行として先日、
熊本・長崎へと行ってまいりました。
その模様をお伝えいたします。

わが社では2年に1度の恒例行事として社員全員参加で研修・総会を兼ねた旅行に行っています。

当日はいつもの始業時刻よりも早い出発でしたが、全社員が集合時刻よりも早めに集合。

旅行でも日頃の業務と変わらず「10分前行動」が基本です。とはいえ中には眠そうな顔の社員も……。

いつも会社から見える新幹線に今日は乗り込み、いざ出発！
新幹線の窓から見えるわが社に別れを告げ熊本へと向かいます。九州新幹線「さくら」はゆったりとした座席で、全員がリラックス。車内での社員同士の会話も弾みます。

目的地までの移動の時間も社員旅行の楽しみのひとつ。熊本へあっという間の到着です。



当日の九州地方は台風接近の為、悪天候も予想されていましたが到着してみれば心配無用の快晴！思わぬ暑さでわが社を迎えてくれました。

早速、地元の郷土料理（馬刺しが最高でした！）に舌鼓を打ち、その後熊本城の散策へ。

歴史好きの社員による解説や地元のゆるキャラとの写真撮影などもあり、社員一同で大いに熊本城を堪能。日頃の業務ではなかなか交わる機会のない社員同士の交流も深まりました。



熊本を後にした一行は宿泊地である長崎（雲仙）に到着。

充満する硫黄の匂いが温泉に来たことを実感させ、気分を盛り上げます。

日頃の疲れを温泉で癒し、ほっこりした社員一同は、そのまま宴会へ。

宴会では、顔を合わせる機会の少ない東京営業所のメンバーの挨拶や入社したばかりの新人紹介も行われました。

その後、マイクを握り司会となった社長から指名された会長、専務が挨拶。それだけでは終わらず引き続き営業社員を始め、次々と多くの社員が壇上に上げられ挨拶をしていくことに……。

どうやら事前に打ち合わせのない社長によるサプライズだったようですが、会場は大いに盛り上がりました。

リラックスした雰囲気の中、新人社員もすっかり周り打ち解けたようです。



2日目は、軍艦島上陸コース、長崎市内観光コースとそれぞれ希望するコースでの観光でしたが、どちらも世界遺産登録に沸く長崎を楽しみました。

帰りの車中ではそれぞれのコースの感想を語り合うなど、地元の大阪に着くまで盛り上がり続けた今回の社員旅行。

日頃の疲れが癒されるだけでなく、社員同士のコミュニケーションもこれまで以上に密になったことを実感しました。

旅行疲れが心配でしたが社員一同、既に仕事モードに切り替えバリバリ頑張っております。遊びも仕事も全力投球の遊文舎を今後ともよろしくお願いいたします！（やまちゃん）

遊文舎の おしごと

第7弾

営業推進課のご紹介

「おーっと、抜けてませんかー？」

遊文通信45号から始まった「遊文舎のおしごと」シリーズ。

前号「印刷・製本課」—ものづくりの最終工程…

あれっ？ 終わりました？

忘れてもらっては困ります、「業務部 営業推進課」、4名。



「営業推進課」とは…。

クライアントさまのご要望を営業、時にはクライアントさまとお会いし打ち合わせをし、そして制作部へ。制作部がスムーズに作業を進めていけるよう潤滑油の役割をになう。その中の主な仕事のひとつに「校正」があり、今回は、この「校正」について、少しお話を。

※校正とは…ゲラ刷りなど印刷物の作業の中間段階で、原稿と比べながら種々の誤りや不備を赤エンピツで直すこと。

■ 赤に執着しない！

もちろん、クライアントさまからの朱書きゲラが訂正されているか確認するのは当然。重要なのは、訂正することでその訂正によって付随するもの…たとえば、柱、見出しの変更による目次の変更、文章が増えれば、ページ・目次にも影響が出る。ひとつ訂正することによってどこに影響がでるのか…？ 確認しないといけないところは山積なのである。

■ 文章は読まない！

これも校正者にとっては当然のことであろうか。文字校正とはいえ、文章を読んでいたら日が暮れてしまう！？ただ、クライアントさまのご要望・本のプロットぐらいは最初の段階でザックリでも頭に入れておく、を前提とした話だが…。難

ここでは、「校閲」（文章の使い方、言い回しが間違っていないか？ ファクトチェック＝事実関係は合っているか？）ではなく、あくまでも「校正」について。

■ 0.5 ミリのズレ

人それぞれ、校正者は得意な技を持っている。「あおり校正」で文頭と文末のズレを見る、

スピードに関してこの校正法に勝るものはない。「あおり校正」が得意技、とびっきり早い人…もう、これは場数を踏む、それしかないであろう。他には文字が記号に見える人もいる。これは、まず、素読みのゲラをしばらく眺め、版面上の体裁・フォント・ポイントを頭に入れ、一枚の画像もしくは写真のように頭に残し、その後、ザーッと一気に進める。慣れてくると、行ズレなどの間違いが自然と目に入ってくる…。「0.5 ミリのズレ」が分かれば、すべてのズレが見える、とは、ウン十年前の在りし日の師匠。

■ 今後を読む

斜陽と言われている出版業界。校正者は化石化？ いえ、書籍の販売部数は減少傾向ではあるが、刊行数は減っていない。電子書籍やWeb マガジン等、文字媒体も多様化し、紙媒体から変化を続ける限り、校正者にも新たな変化が求められていくであろう。

日々、悪戦苦闘しながら、文字と格闘している小部隊？「営業推進課」。

クライアントさまのご要望にお応えできるよう、時には人と人の間の油になり、時にはクライアントさまが気持ちよく泳げる水になる、そんな変幻自在に空を行く雲のように進むべく現在進化中である。
(営業推進課 檸檬爆弾)

● 編集後記 ●

夏真っ盛りです！朝から汗べったりで会社の更衣室に駆け込むわけですが、毎日毎日「暑いですねー！」「ほんまに暑いねー！」とかわり映えのしない会話。。。と思っていたら、俵万智さんのこんな短歌を見つけました。

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ

「寒いね」と話しかける季節はまだまだ先ですが、同じ答えを共有できる幸せをかみしめつつ、夏を乗り切りたいと思います！

皆様夏バテなどお気をつけて…

(おーえ)

☒ 今月の紙 ☒

サーブルスノーホワイト / (90kg)